

「福岡工業大学 点検・評価報告書 2008」の刊行にあたって

本学は、1963年の開学以来、「建学の綱領」に基づき、“情報・環境・モノづくり”というキャッチフレーズで象徴される科学技術分野の教育研究を通じて、これらの科学技術分野の実学的基盤知識と応用能力+優れた技術センス、さらには豊かな人間力および旺盛な行動力をもつ人材の育成を目指し、「For all the students」の精神のもとに、学生一人ひとりに対する丁寧な教育と、行き届いた教育・就職支援の実現に努力してきた。

その間、1991年の大学設置基準改正から現在までの学校教育法・大学設置基準等の逐次改正に象徴される国家規模の大学改革の流れに対応して、本学も大学改革と教育研究の改善に取り組んできた。1997年には、それまでの教育研究高度化委員会と自己点検・評価実施委員会を統合して現在の「自己点検・評価委員会」を発足させ、2回目の「点検・評価報告書」に基づいて大学基準協会の維持会員への加盟を申請し、1999年4月1日付けで加盟を認められた。

1998年には、本学の「中期経営計画（マスタープラン）」が策定されて、財政基盤の強化や教育研究環境の整備等の計画的推進方針が提示された。この推進方針に基づき、本学の改革・改善の推進方策として、学内の自己点検・評価委員会を経由するPDCAサイクルと法人の改革推進室及び理事会を経由するPDCAサイクルの2重のPDCAサイクルをもつ、本学独自の改革・改善推進ルートの基盤が築かれた。

この推進体制のもとに、第1次～第3次の教育改善委員会を逐次発足させて、積極的な教育改善を推進すると共に、第2期施設整備計画を策定して、大幅な教育研究環境の整備に着手し、2004年までに得られた成果を第4回の「点検・評価報告書」にまとめた。

2005年度にはこの点検・評価報告書に基づき、第三者評価機関として文部科学省から認証されている財団法人大学基準協会による「相互評価」ならびに「認証評価」を申請し、2006年3月29日付で同協会が設定する“大学基準”に適合している旨の認定を得た。

しかしながら、本学の大学改革や教育研究改善はまだ途上にあり、2005年の「相互評価」および「認証評価」の際に頂いた助言や指摘なども十分に参考にさせながらの改革・改善に一層の努力が必要な状況にある。2006年にはこの目的の遂行に向けて、第3次教育改善委員会を「教育改善推進委員会」に改組すると共に、研究のさらなる活性化と産官学連携の推進に向けて既存の研究機関を統合した「総合研究機構」を発足させ、2007年には「第4次中期経営計画（マスタープラン）」を策定して、大学の改革・改善に努力してきた。

本報告は、前回の点検・評価報告書発行（2004年）以降の本学の教育・研究・社会貢献への取り組みをまとめたものである。

本学教職員のこれまでのご尽力に敬意と謝意を表し、今後、なお一層のご努力をお願いすると共に、大方の忌憚のないご批判とアドバイスを頂ければ幸甚に存じます。

2009年4月

福岡工業大学 学長 山藤 馨